さもないと、若し大作などの場合に、女神などを描こうと思つても下女のような感ししか出なくなる道理だと、一も二もなく感じた、研究生は解つたのか解らぬのか、皆少さくなつてハイハイと聞いている、中には八重洲橋邊を寫したのを持てきて見せる、茲に少しアクセントを入れたらよかろーなどゝ評せられる、今度は僕の番だ、何だかうれしいような氣がする、これは無難な作だが、少しパツクとの調和が悪いと云はれた、これから石膏の方の番だ。

水曜　晴　但時々曇

今日はモデルが病氣で休んだ、此鼠色の空に日光を受けた白帆など面白いだろうと、友のターちやんと永代橋へ出掛けた、前景には西洋形の破船があつて、中景は順風に隅田を溯つている帆船が二三艘遠景としては石川島の造船所だ。實にお誂(アツラ)へ向だ。どうじや寫そうぢやないかと云ふと、あまり船が復雜だと云ふ、何だ君はこんな所が面白いと云ひ出した、茲に端なく畫論が起つた、ターちやんの云ふのは、こうだ、こんな復雜な所を寫しても、出鱈目になつて研究にならぬ、それよりも、向ふの運送店に日の當つた處を忠實にやつたほうが研究になると云ふ。僕もまけていず、復雜な所を寫したからとて、出鱈目になる事はない。帆繩一本々々丁寧に寫したとて何になる、要は感じにある、既に此景に對して或美觀を覺えたなら、其感じを寫して見るも研究だ、君の樣な事を云つていたら、活動物などは寫すことは出來ぬ、君がいくら忠實に運送店を寫したとて、少しも誤りなく寫すことは出來ぬ、してみれば此景だつて、君が感しただけ寫したらよい、いらぬ所は描かんでもよい、と云ふと、ターちやんは又云ふ。それはいけぬ吾々の時季は、未だそんな自然物を取捨するだけの腦力がない、自然を十分忠實に誤りなく寫してこそ研究になるのだ、君のような寫生の仕方では、幾百枚描いたとてうまくならぬと、なか〳〵双方勝負の見込が付かぬ、フト氣がつくと人が澤山集つている、オヽ寒いれ、何時だ、三時半。オヤもうだめだ歸ろうと、とうとう何もかゝずに歸つた。翌日ターちやんから手紙が來た、曰く、昨日は寒いのに御苦勞さん、あの畫論は、宅でよく〳〵考へてみたら、君のも道理だ、僕のも道理だ、要するに人々に依つて其趣味を異にするので、君が隅田川を描こうと、僕が運送店を描こうと勝手だ、あすは仲直りをして一しよに出掛けよう。」終

最新の印象

愛知縣枇杷島町
吉田與三

△現今の繪畫には田園の聲が多い。自然の聲が多い。その割合に都會の聲が少い。人間の聲が少い。私はもつと都會を觀察して貰ひたい。人の心裡を深く描いて貰ひたいものだ。

△人の心裡を表面に描き出すことは必ず容易な事ではなかろう。私は、自分に何事かを思ひ感じたその刹那の表情態度を鏡にうつして微細なる研究をして貰ひたい。そこに大なる主觀のほの

めきをみとめらるゝのだ。やがて繪畫即人生となるのだ。

△將來の繪畫は技巧では飽たらない。態度なんだ。

△私は文人畫を好む、その鋭い印象的の筆致を好む。その省略に對する態度の優れたるのを好む。然れども獨創にあらずそれを眞似た主觀のあやふやなのを嫌ふ。

△自然をたゞ平面的に描くのは余程氣をつけないと平凡に落ち入り易い。平面の裏面に主觀のほのめきが無けりや駄目だ。余はつくづく主觀の必要をみとめる。

紹介

◎東京寫眞研究會第一回品評會畫集、第一輯　人物風景を合せて藏むる處の寫眞畫十五面、澁きラシヤ紙の臺紙に美しく貼られてあつて、畫題や撮影者の名は白く印刷せられてある、頗る贅澤なもの。人物としては渡部氏の「あみもの」山崎氏の「兒童」などよく、山本氏の肖像は芝居がゝりて嫌味あり、宮内氏の畫生も畫をかく態度と見えぬ。風景では加藤氏の浮草面白く、淺野氏の「河畔の秋」、秋といふ感じは充分見えないが佳作、久野氏の牧場は極めて自然で氣に入つた。品評會中の傑作を集めたものだけあつて、流石に垢抜のした寫眞が多く、畫をかく吾々も大に教へられた處があつた。第二集第三集の續刊を待つ。（定價六十錢、日本橋本町小西本店發行）

◎中央公論　春期大附錄號　本文中「犬養木堂論」は出色、黒頭巾氏の『帝都の新聞經營者』面白し。附錄の小説脚本二百頁、曰く德田秋聲の『母』、曰く眞山青果の『枝』、曰く佐藤紅綠の『癈馬』、曰く正宗白鳥の『悪緣』、それ〳〵特色があつて異つた印象が與へられる。政治に文學に、いつも新題材を提供せらるゝ編者の勞を多しとする。（本號限り四十五錢、本郷駒込西片町反省社）

◎印刷同志（創刊五週年紀念號）　印刷界唯一の雜誌にして本號には四葉の寫眞版を挿み印刷に關する諸家の説を集めたり（毎月一回定價五錢、本號限り十五錢、京都府葛野郡大内村字八條坊門印刷同志會發行）

◎實業界　甲府市より新に産れたる實業雜誌にて體裁内容殆と實業の世界に似たり（毎月一回、定價十錢、甲府市紅梅町山梨實業社發行）

◎遊覽案内　一册　青梅鐵道がカチヤ〳〵式の輕便鐵道を普通鐵道に改築した紀念として發行されしもの、筒井年峰氏の實景寫眞十三葉、並びに汀鷗、九華、思案、天溪、小波、四丁等諸氏の美文紀行文を藏めたり、粧釘瀟洒、その地に遊ぶ人の好伴侶たるべし（非賣品）

日本水彩畫會新會友
和歌山縣海草郡濱東尋常高等小學校
生　駒　國　次　郎